第５次レッドデータブック：
絶滅のおそれのある日本の野生生物

The 5th Red Databook, Threatened wildlife of Japan

キタサンショウウオ

Salamandrella keyserlingii Dybowski, 1870

竹中践（東海大学）

絶滅のおそれのある野生生物の選定・評価検討会　爬虫類・両生類分科会

環境省 編

令和８（２０２６）年３月

特に文献内で別途指定がない限り、この文献はクリエイティブ・コモンズ 表示 4.0 国際ライセンスの下に提供されています。

https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja

種毎の解説を引用する場合には以下のように記述してください。

引用表示：竹中践，2026．キタサンショウウオ．環境省（編）第５次レッドデータブック：絶滅のおそれのある日本の野生生物，pp. 461-465．

Citation: Takenaka, S., 2026. *Salamandrella keyserlingii* Dybowski, 1870. *In*: Ministry of the Environment, Japan (ed.), *The 5th Red Databook, Threatened wildlife of Japan*, pp. 461-465.

有尾目 Caudata　サンショウウオ科 Hynobiidae

キタサンショウウオ

***Salamandrella keyserlingii* Dybowski, 1870**

カテゴリー判定結果　絶滅危惧ⅠB類（EN）　B1ab+2ab

基準 A:　—	基準 B:　EN	基準 C:　—	基準 D:　—	基準 E:　—

B1+2．出現範囲が 5000 km²未満かつ生息地面積が 500 km²未満であると推定されるほか、次の兆候が見られる。

a) 生息地が過度に分断されているか、5 以下の地点に限定されている。

【過度に分断】

釧路集団では、道路、農地、住宅地、太陽光発電施設等によって生息地が分断され、残存する小集団は絶滅リスクが高い状態にある。上士幌集団は、開拓以降、農地開発の影響を強く受けてきたと考えられ、現在はごく限られた場所でしかみられない。

【地点数】5 地点以下

b) 出現範囲、生息地面積、生息地の質、生息地点数、成熟個体数のいずれかに継続的な減少が推定・予測される。

【判断理由】

釧路集団においては､国立公園等によって保護されている生息場所･繁殖場所は全体の 30%程度に過ぎず、その他の大部分の地域では、圃場整備、道路建設、ソーラー発電施設の建設などによる造成の影響が続いている。天然記念物指定のある釧路市、標茶町では、保全対策がとられてきているが､生息地改変の場合の代替措置としては移殖を行うことが多く､しかも移殖後に集団が長期に存続した事例がない。

評価分科会：　爬虫類・両生類分科会

概要

本種の分布はヨーロッパ東部からシベリア、サハリン、千島列島北部、国後島、北海道に広がっている。北海道においては釧路湿原と上士幌に生息する。湿原の止水域や林に隣接した池で繁殖し、卵嚢は水中の植物の茎などに産み付けられる。孵化幼生は小さく、全長で 12 mm 程度。変態上陸後の幼体と成体は、繁殖地近くの林床で生活する。釧路地域と上士幌地域で、あわせて 30 ヵ所ほどの繁殖地が知られているが、圃場整備やその他の土地利用によって、近年でも繁殖地が消失する事例がでている。釧路湿原の国立公園の特別地域内や釧路市と標茶町の天然記念物として保護されている集団もある。

協力者:　乙幡康之（ひがし大雪自然館）・照井滋晴（NPO 法人環境把握推進ネットワーク- PEG）・佐藤孝則（天理大学）

基礎情報

【形態】

頭胴長 6 cm 程度、全長 12 cm 程度の小型のサンショウウオ。体色は青みを帯びた褐色で、背面中央のほとんど全長にわたって黄褐色の縦条がある。腹面は背面よりも色が淡く、暗青色の斑点が散在する。胴は円筒状で、肋条は 13 本、四肢は短く、細い。尾長は頭胴長よりもやや短く、後方に向かって側扁してひれ状になっている。

【生活史】

北海道では 4 月中旬頃から 5 月中旬頃にかけて産卵し、幼生は 7 月頃に変態・上陸する。繁殖水域は止水で、周辺は「谷地坊主」などがある湿原であることが多い。卵嚢は巻いた短いひも状で、透明、産卵直後は青白い蛍光を発する。繁殖開始は 3 歳以上で、雌が産卵する卵嚢 1 対には合計で 230 卵程度（110～340 卵）が含まれる。孵化幼生の全長は 12 mm 程度。変態上陸後は付近の林床で生活する。成体の食性は、ハエ目、コウチュウ目等の昆虫、トビムシ類、クモ類などの節足動物、オカモノアラガイなどの貝類など。

【生息環境】

サハリンでは林道わきの水たまりや緩やかな流れのある水路等の多様な水域で繁殖するが、北海道では主に谷内坊主と谷内眼が混在するような低層湿原に生息し、周辺の灌木林の林床が幼体、成体の生活圏となっている。繁殖では、止水または緩い流れのある水域に集まり、卵嚢は水辺のクサヨシなどの水中の茎などに付着して産みつけられる。孵化した幼生は水中の沈水植物のあいだなどに潜んで生育する。

生息環境区分：	【陸域_低標高地】草地，湿地・湿原・細流 【陸域_平地部】草地，湿地・湿原，ため池・池沼，その他（疎林に隣接する湧き水）
国土地域区分：	（2）里地里山・田園地域，（4）河川・湿地地域

【分布域】

ヨーロッパのウラル山脈西からロシア沿海地方、サハリン、千島列島北部、国後島、北海道にかけて分布する。北海道では、釧路湿原のみに分布すると考えられてきたが、近年、十勝地方の上士幌町でも分布が確認された。

現在の生息状況

【分布域の現況】

現在確認されている国内の分布域は、北海道の釧路湿原を中心とした地域と十勝地方の上士幌町の一部。国後島の状況は不明。釧路地域では、道路開発、宅地・農地開発、太陽光発電施設建設等による繁殖地消失が継続している。近年発見された上士幌集団の分布域はきわめて狭いが、開拓前の十勝地方の分布域はもっと広かった可能性がある。

【生息地の現況】

主な生息地である釧路湿原を中心とした地域では、部分的に国立公園特別地域指定や釧

路市、標茶町、上士幌町の本種の天然記念物指定によって保護されているところもあるが、生息・繁殖地の 3 分の 2 程度は保護区外にあり、道路開発、宅地・農地開発、太陽光発電施設建設等による繁殖地消失が継続している。上士幌では、わずかな繁殖地点で個体群が維持されており、絶滅リスクが特に高い。本種の分布地域のほとんどの繁殖環境は、地元の保全活動なしには存続が危ぶまれる状況にある。

【個体数の現況】

釧路地域と上士幌地域をあわせて 30 カ所ほどの繁殖地が知られていて、各繁殖地は数十の卵嚢対の産卵がある。おおよそ、1000 個体程度の成体雌と推定できるが、個別の繁殖地で個体数推定を行った調査は限られているので、全体の個体数は不明。

存続を脅かす要因

釧路湿原国立公園特別地域への指定や、釧路市、標茶町、上士幌町の天然記念物指定によって保護されているところもあるが、本種の生息・繁殖地の 3 分の 2 程度が保護区外にあり、道路開発、宅地・農地開発、太陽光発電施設建設等による繁殖地消失が継続している。また、天然記念物指定のない町村ではペットトレードを目的とした採集の影響が危惧される。

要因の区分：	（過去）	湿地開発，圃場整備，草地開発，土地造成，交通インフラ建設，水質汚濁，遷移進行・植生変化/自然遷移，競争/競合（在来種による），違法採集
	（現在）	湿地開発，圃場整備，草地開発，土地造成，交通インフラ建設，水質汚濁，遷移進行・植生変化/自然遷移，競争/競合（在来種による），違法採集

特記事項

サハリンと釧路地域の個体群の分岐年代は約 190 万年前、釧路地域と十勝地域の個体群では約 30 万年前と推定されている。釧路地域の繁殖集団間においても遺伝的隔離が進んでいることが推定されている。現在の分布域は、エゾサンショウウオとの生息環境の競合によって制限されてきたとも考えられるが、両種の分布域の変遷はかなり複雑であったと推察される。これらのことから、北海道の動物相を考える上で地誌的、学術的価値が高いと判断される。各個体群の現状把握と保全対策が必要と考えられる。釧路市、標茶町、上士幌町の天然記念物に指定されていている。

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第４次 2020：	キタサンショウウオ	*Salamandrella keyserlingii*	EN
第４次 2019：	キタサンショウウオ	*Salamandrella keyserlingii*	NT
第４次 2018：	キタサンショウウオ	*Salamandrella keyserlingii*	NT

第４次 2017：	キタサンショウウオ	*Salamandrella keyserlingii*	NT
第４次 2015：	キタサンショウウオ	*Salamandrella keyserlingii*	NT
第４次：	キタサンショウウオ	*Salamandrella keyserlingii*	NT
第３次：	キタサンショウウオ	*Salamandrella keyserlingii*	NT
第２次：	キタサンショウウオ	*Salamandrella keyserlingii*	NT
第１次：	キタサンショウウオ	*Salamandrella keyserlingii*	R

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和６年度末時点）

【北海道】絶滅危惧ⅠB 類(En)

保護に係る法令指定状況（令和７年度末時点）

特定第二種国内希少野生動植物種

参考文献

- 橋本正雄，1974．釧路市北斗におけるキタサンショウウオ *Salamandrella keyserlingii* Dybowski の繁殖について 一第 1 報一．釧路市立郷土博物館紀要，3:1-9．
- 橋本正雄，1991．北海道東部、釧路湿原におけるキタサンショウウオの移転について．釧路市立博物館紀要，16: 1-12．
- 羽角正人・神田房行，1996．釧路湿原大楽毛地区でのキタサンショウウオの繁殖．釧路市立博物館紀要，20: 1-4．
- Kuzmin, S. L. and I. V. Maslova, 2003. The amphibians of the Russian Far East (Advances in amphibian research in the former Soviet Union vol. 8). 464pp. PENSOFT, Sofia-Moscow.
- Matsui, M., N. Yoshikawa, T. Tanaka-Ueno, T. Sato, S. Takenaka, S. Terui, Y. Oppata, and A. Tominaga, 2019. A genetic study of a newly found population of Siberian salamander, *Salamandrella keyserlingii* (Amphibia, Caudata). Current Herpetology, 38: 122-127.
- 宮崎七奈衣・乙幡康之，2017．北海道上士幌町で確認されたキタサンショウウオの可能性のある卵嚢．爬虫両棲類学会報，2017: 148-150．
- 佐藤孝則・松井正文（編著），2013．北海道のサンショウウオたち．エコ・ネットワーク，札幌．258pp．
- 佐藤孝則・中林成広・成海信之・神松幸弘，1999．釧路湿原におけるキタサンショウウオの繁殖状況．釧路市立博物館紀要，23: 25-31．
- 照井滋晴・秋山吉寛・野本和宏，2022．キタサンショウウオの移転事業後の長期モニタリングの結果と移転の留意点．Wildlife and Human Society，10: 27-34．
- Tran, D. V., S. Terui, K. Nomoto, and K. Nishikawa, 2021. Ecological niche differentiation of two salamanders (Caudata: Hynobiidae) from Hokkaido Island, Japan. Ecological Research, 36: 281-292.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Salamandrella keyserlingii has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Salamandrella keyserlingii* is listed as EN under criteria B1ab+2ab.

B1+2. Extent of occurrence estimated to be less than 5,000 km² AND area of occupancy estimated to be less than 500 km², and estimates indicating at least two of a-c:

a. Severely fragmented or known to exist at five or fewer locations.

b. Continuing decline, observed, inferred or projected, in any of the following:

(i) extent of occurrence

(ii) area of occupancy

(iii) area, extent and/or quality of habitat

(iv) number of locations or subpopulations

(v) number of mature individuals

Habitat types:	【Terrestrial/Freshwater area_Low-altitude area】Grassland, Wetland/Marsh/Stream 【Terrestrial/Freshwater area_Plain】Grassland, Wetland, Reservoir/Pond, Other
Threat types:	Wetland development, Field preparation, Grassland development, Land development, Transportation infrastructure construction, Water pollution, Successional progression/Vegetation change/Natural succession, Competition (with native species), Illegal harvesting of biological resources
Law designation status for conservation	Specified class II nationally rare species of wild fauna and flora.





執筆者:	竹中践（東海大学）
Author:	Sen Takenaka

公表年月：2026 年 3 月